

## 今、注目される協同労働。 持続可能な地域・職場づくりへ②

前号と同じ特集テーマにしました。前号との違いはより職場づくりに力点を置いて掲載している点です。しかし職場づくりと地域づくりは一体的につくられるものなので、地域づくり・職場づくりを併記した特集テーマとなっています。

本号を作成する問題意識として、労働者協同組合を立ち上げたいという方と懇談すると、「働く人がフラットな場合、意志決定はどのようにしますか、意見反映はどのようにしますか」という質問が多く寄せられます。そのときに「対話すること」(A・Bと違う意見のなかで、Cという新しい意見をつくる)を伝えますが、「みんなちがってみんないい。だから大変だ」の先にある意志決定のあり方をより深めたいと考え、特集しました。

名嘉報告では、特に対話を具体化するために、何を考え、実践するのかのヒントが詰まっています。特に「コミュニケーションにおける4つのモード(抗争・交渉・協議・協働)」「話し合い・対話のプロセス(話し合いのプロセスシート)」「3つの交渉のあり方(ソフト型交渉・ハード型交渉・原則立脚型交渉)」では、頭で考えるのではなく、実際に行ってみることの大切さを紹介しています。名嘉さんは『多様性』『対話』が多くのところでも話題に上ることが増えています。そのときに「理念・理想・態度」ベースだけではなく、具体的なスキルとして身につけることが必要」と述べている通り、協同労働の職場づくりを推進するときに、対話の一定の技法が求められると考えています。そこで名嘉さんを講師にして、研修会等を実施できればと考えています。

佐藤報告では、ひだまりでの職場づくりの事例が紹介されています。事業所運営の基礎組織づくりがされており、全組合員がチームとなり取り組み、できないことよりもどうしたらできるのかを大切にされて運営しています。そして所長はぶれない指針を出すことなども出され、リーダーのあり方も提起する内容になっています。丁寧な職場づくりをしながら、協同労働で人が変化し、良い仕事を生み出すモデルがひだまりにはあるのではないかと考えています。

藤平報告では、地域で必要とされている仕事おこしを進めてきたことが掲載されています。介護保険事業を柱に、子ども食堂、社協が介護保険事業撤退後のヘルパーやケアマネー

ジャーの移籍の受け入れ、学習支援、よろず相談の窓口設置など、事業を複合化・総合化させ、仕事の連続的立ち上げをしながら、地域のインフラをぬくもりはつくってきました。まだまだ地域からぬくもりが「介護保険事業者」として見られますが、「協同労働」に確信を持ち始める途上の中、地域の総合福祉拠点になり始めていることを感じます。

山崎報告では、「多文化共生」をキーワードに愛知県豊田市の保見地域の実践を紹介しています。外国籍の方が、言葉の壁や文化の違いから、働く場、暮らす場、学びの場において多くの困りごとが生まれています。その方々を支える取り組み、その方々が労働者となり解決する主体になりながら、誰もが快く生きたいと思える地域づくりを目指していることを報告から感じます。山崎報告には、外国籍の方がよりよく生きるための仕事おこし、地域づくりのあり方のモデルが詰まっていると考えています。

鳴海報告では、「仕事おこしには職場づくりのエッセンスが詰まっている」のタイトル通り、仕事おこしに向かうことが、協同労働による職場づくりを促進することにつながる と述べられています。経営に行き詰まる事業所の特徴として、「職場での会議(団会議)を開催してない」「会議が所長だけの報告になっている」「方針を出さない」「情報が共有されていない」「地域に出ていない(関わらない)」、「全国会議に参加していない」「経営数値の読み方がわからない」「仕事おこしにも向かわない」をあげています。そのなかで協同労働の現場づくりを促進するために、1人ひとりと会話し、困ったこと・夢・楽しいことを見つけ、「共通の喜びの目標」をつくることが語られました。「仕事おこし」と「職場づくり」が分かれておらず、つながっていることを感じさせる報告になっています。

春山報告では、春山さんの視点から約15年間のワーカーズコープにおけるリスクマネジメントの歴史と要点をまとめています。事故等を見える化・指標化・共有化するとともに、最大のリスクマネジメントは協同労働の理念と実践を結ぶことだとしています。リスクマネジメントが危機を回避するだけでなく、協同労働の職場づくりを深めることにつながることを感じました。

すべての報告で共通して言えることは、持続可能な地域づくりの原動力となる協同労働がどのようなプロセスでつくられるのかを探る特集になっています。協同労働が注目されるなかで、本号が前号とともに多様な方々が協同労働で職場づくり、地域づくりをしたいと思えるきっかけになればと考えています。

相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)